



SUIBARA ROTARY

通算第 2946 回 2024 年(R6) 1 月 17 日 第 2 例会 第 20 号



世界に希望を生み出そう



本年度 RI テーマ RI 会長ゴードン R.マッキナリー
「世界に希望を生みだそう」

本年度地区テーマ 地区ガバナー 米山忠俊
「ロータリーの心で友情を深めよう」

本年度水原 RC テーマ 会長 中村 満
「みんなで楽しめるロータリーの構築」

例会長 / 中村 満
幹事 / 川瀬正憲
広報委員長 / 加藤宏隆

出席報告				
当日	在籍数	出席数	算定対象数	出席率
	33	23	28	82%
お客様				

プログラム予告	
1月31日	通常例会（卓話 柳 晴彦さん）
2月 7日	理事会・通常例会（卓話 ゲスト）☆
2月14日	創立記念夜間例会（天朝閣）
2月21日	通常例会（卓話 古田真之さん）
2月28日	通常例会（卓話 須田幸英さん）
3月 4日	永年100%出席祝う会（大観荘）
3月 6日	理事会・通常例会（卓話 佐藤東市さん）
☆はゲストスピーカー	

SAA：玉城政徳さん

開会の点鐘…中村会長

ロータリーソング「我らの生業」斉唱、四つのテスト唱和

【会長挨拶】中村会長

29 年前、阪神淡路大震災が発生しました。記憶が薄れているかもしれませんが、家屋の倒壊で亡くなった方が多かったです。阪神高速道路の映像を見たときは衝撃でした。当時はまだ携帯電話が一般的に

普及していませんでしたので、家族と再会したのが1週間後という方も多くいらっしゃいました。地震というのは予測が出来ないものですから、それに遭遇した時にどれだけ準備しているか、避難用品のリストなど作っても、ちょっとのど元過ぎれば忘れてしまうものです。阪神淡路大震災の9年後に新潟で中越地震が起きています。7年後に東日本大震災が発生、そしてその12年後に今回の能登半島地震がおきました。およそ10年位おきに地震がおきているのではと思います。

日ごろからそうした災害時に備えた準備をしておくことが大事だと感じます。

【幹事報告】川瀬幹事

・真岡西 RC と中条胎内 RC の記念式典参加について 12 名の回答をもらっていますが、まだ受け付けていますのでお申し出ください。

・ガバナー事務所から能登地震における支援金について、2 月 29 日までに金額をまとめて送金してほしいという依頼が来ています。クラブからの他、個人として支援金を送りたいという方がいればそれもまとめて送ります。

【委員会報告】

・ニコニコ BOX・・・白井 収さん

○夫人誕生日祝いお礼・・・遠藤和人さん

○卓話終了・・・小林 孝さん

宮嶋さん入会のお祝いとして一人千円の寄付をお願いします。

本日 4, 000 円
累計 300, 000 円

・出席委員会・・・遠藤和人さん

本日の出席は 23 人で出席率は 82% でした。

【卓話】小林 孝さん

能登半島地震の大変な被害を目にし、もし海外であったら強盗や略奪、デモや暴動がおきてもおかしくないし、行政に対しても不満が出ると思いますが、日本ではそういうことがほとんどありません。

日本人の美德というか精神の源は武士道にあるのではないかと、以前に読んだ新渡戸稲造氏著「武士道」について話します。

新渡戸稲造がこの本を書くきっかけになったのはベルギー人の有名な学者から、「日本には宗教教育は無いのか、では道徳教育はどうしているのか」と問われたことからでした。

本書によれば、武士道とは規範であり、「武士がその職業においてまた日常生活において守るべき道」であり、仏教、神道、儒教の影響を受けて形成された。

武士の守るべき道徳には、正義の行いをする「義」、その行動を実行するための「勇」、愛情や憐れみの心である「仁」などがある。それらを併せ持つことでより高い徳を身につけることができる。武士道の精神は、武士の中だけにとどまることなく民衆に広く伝播し、国民全体の道徳観念をかたちづかった。

最も重んじられたのは「義」で、上杉謙信も「義が無ければ戦はしない」としている。その「義」の正義を実行する「勇」は、ただ戦場に行って死ぬのは犬死で、「義」を貫くために戦うのが「勇」であった。三つめが愛、他者へのいたわりなどの「仁」である。人の上に立つ場合に一番重要なのがこの「仁」である。封建社会の日本で専制政治にならなかった理由は、「仁」のおかげだったと言われている。敗者、弱者に対する優しい心であった。次が「礼」で、他人に対する心が表に出たものである。礼儀を重んじる茶道に例えれば、作法があり、無駄を省いた合理的な流れである。

「誠」は、立派に成し遂げることである。武士の言葉は証文なしに成し遂げられた。違うことをすれば名誉を傷つけて恥になった。金銭的なものは権力と分けた。

「名誉」とは、個人の尊厳と価値を興津に意識することである。これらが子どもの頃から一般社会にも浸透していた。

われわれも、(最近はあまり聞きませんが)子どもの頃から他人に笑われるようなことをするなどよく言われたものでした。